



2009年(平成21年)10月期

# 第2四半期決算説明会資料

株式会社オービス

代表取締役社長 おこし いわお 御輿 岩男

(ジャスダック証券取引所、証券コード:7827)

2009年6月19日

## ●目次

<b>PART1 会社の概要</b>	<b>3</b>
●プロフィール	4
●経営理念・沿革	5
<b>PART2 事業の特長(強み)</b>	<b>6</b>
●木材事業のビジネスフロー	7
●木材事業の特長	8
<b>PART3 2009年10月期第2四半期の連結業績</b>	<b>11</b>
1. 四半期連結損益計算書	12
2. 売上高・四半期純利益(損失)の増減要因	13
3. 事業の種類別セグメント業績	
●木材事業	14
●ハウス事業	15
●アミューズメント事業	16
●不動産事業	17
4. 四半期連結貸借対照表及び四半期連結 キャッシュ・フロー計算書	18

<b>PART4 市場環境と取組みの進捗状況</b>	<b>19</b>
●木材事業の市場環境 ①	20
●木材事業の市場環境 ②	21
●木材事業の市場環境 ③	22
●木材事業:取組みの進捗状況	23
●ハウス事業の市場環境	24
●ハウス事業:取組みの進捗状況	25
●アミューズメント事業の市場環境	26
●アミューズメント事業:取組みの進捗状況	27

<b>PART5 2009年10月期の業績予想</b>	<b>28</b>
1. 連結業績予想(通期)	29
2. 予想配当	30
●本資料お取扱上のご注意	31
●IR担当窓口	32

PART1

# 会社の概要



ニュージーランドの松林(写真提供:住友林業株式会社)

## ニュージーランド松製材の国内最大手

当社グループは、木材、ハウス、アミューズメント、不動産の4つの事業を基盤にビジネスを展開しております。特に主力の木材事業では、ニュージーランド松(ラジアータパイン)製材の国内最大手の評価を頂いております。

会社名	株式会社オービス
設立	昭和34年11月
代表取締役社長	御輿 岩男(おこし いわお)
資本金	6億8,498万円
従業員数	275人(2009年4月末現在)
連結売上高	101億円(2008年10月期末)
事業内容	梱包用材等の製造、販売、プレハブハウスの製造、販売、仮設建物等のリース、一般建築の請負、カラオケハウス及びゴルフ場の運営、不動産の賃貸及び売買
本社	〒729-0105 広島県福山市南松永町四丁目1番48号
連結子会社	株式会社パル TUI MARITIME S.A. (パナマ)

### ●社名の由来●



当社社名の「オービス(ORVIS)」とは、ラテン語で「創設者・出発点」という意味を持つ「origao」と、「パワー・効力」という意味の「vis」を組み合わせた造語です。みなぎる活力で未来を創造していきたいという企業テーマを象徴しております。

## 経営理念

# 顧客満足・社員満足

当社グループの経営理念「顧客満足・社員満足」は、「お客様が満足して使用できるものを生産・提供することにより社会に貢献し、それにより社員の生活の向上を図り、株主の皆様へ利益を還元していく」という意味をあらわしております。

## ■ 当社グループの主要な沿革

昭和34年11月	有限会社中浜材木店を設立	平成元年10月	広島市安佐北区にカラオケハウス1号店を開店
昭和37年 5月	広島県世羅郡世羅西町(現世羅町)に製材工場を建設	平成 4年 4月	株式会社オービスに商号変更
昭和43年 3月	ニュージーランド松の製材工場建設 同時にプレハブ部材の生産開始	平成14年 8月	木材運搬船「グリーンホープ」(最大積載量35,000トン)完成、航海開始
昭和46年 6月	広島県福山市に製材工場移転 同時にプレハブハウスの完成品を販売開始	平成14年11月	中須ゴルフ倶楽部の営業譲渡を受け、営業開始
昭和49年 9月	有限会社中浜材木店を組織変更し、中浜木材株式会社を設立	平成15年 5月	広島県福山市に賃貸マンションを取得し、不動産賃貸開始
昭和62年12月	広島市西区に賃貸ビルを建設し、不動産賃貸開始	平成17年9月	ハウス事業広島工場にてISO9001:2000認証取得
平成元年 4月	カラオケハウスの製造販売開始	平成18年9月	ジャスダック証券取引所に上場
		平成20年8月	木材事業姫路工場稼働開始

PART2

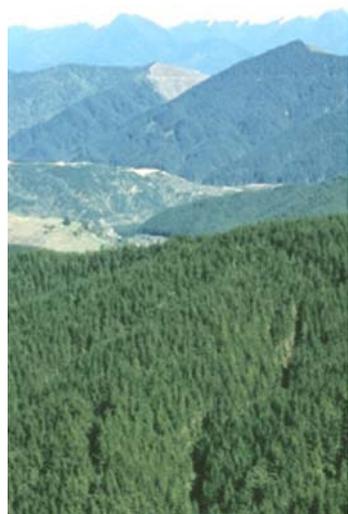
# 事業の特長(強み)



●木材事業のビジネスフロー

仕入・船積

ニュージーランド産ラジアータ松の原木を現地輸出業者から直接仕入



特徴①

海上輸送

専用運搬船「グリーンホープ」で日本まで安定・低コスト輸送



港からの搬入

原木を港湾地域にある当社本社工場及び姫路工場の2ヶ所へ搬入



特徴②

大量製材

独自の大型機械化製造ラインで大量・低コスト製材



出荷

製品を顧客及びユーザーへ直送



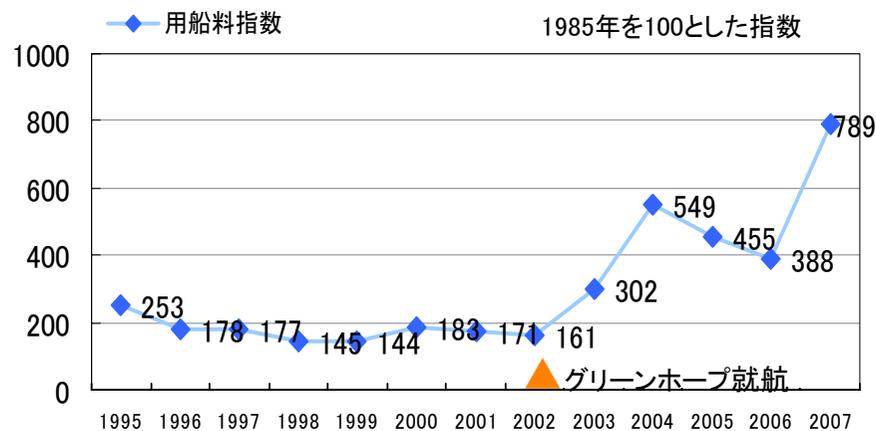
● 木材事業の特長① 専用木材運搬船「グリーンホープ」

■ 安定した輸送コストを実現



- 専用木材運搬船「グリーンホープ」(最大積載量35,000トン)を保有
- 日本とニュージーランドの間を年間9往復し、原木を海上輸送
- 安定的な輸送手段と輸送コストを確保＝国際用船料相場の高騰に影響されない

■ ロイズ SHIPPINGエコノミストによる  
不定期船定期用船料指数 (2万トン以上3万5千トン未満クラス)



■ バルチック海運指数 (ロンドン海運取引所算出)



● 木材事業の特長② 最新の「3Dスキャンシステム」と製材ライン

■ 立体解析されたデータにより自動製材



- 独自の「3Dスキャンシステム」を新工場に設置
- 木材をコンピュータで立体的に解析、最適な木材の切り出し図を自動判定
- 解析データによりすべての機械をコントロールし、自動的に製材を行う。

当社独自の「3Dスキャンシステム」

## ●木材事業の特長③ 製品の特徴

### ■ラジアータ松の強み

- 植林木のため資源量が豊富で安価⇒恒久的に安定供給できる
- 柔軟性に富み加工性に優れる ⇒梱包用材に最適
- 原木の直径が大きく、幅広い製品が取れる
- 計画植林のため環境負荷をかけない

### ■価格競争力

- 直接仕入、自社船による安定的低コスト輸送、大量製材、直接販売等により、ローコストオペレーションが確立されており、価格競争力がある

### ■国内挽製材による多品種、大量、速納性

- 国内の2ヶ所の工場で製材をしているため、多様な顧客ニーズに合わせたきめ細かい製材明細を大量に対応することが可能
- 海外で製材する輸入製材品は、通常3ヶ月前から注文を確定しなければならない。当社は1週間程度で納品できるため速納性にすぐれている

●当社ブランドイメージ「安く、早く、大量に安定供給できる」

PART3

2009年10月期第2四半期の連結業績

# 1. 四半期連結損益計算書

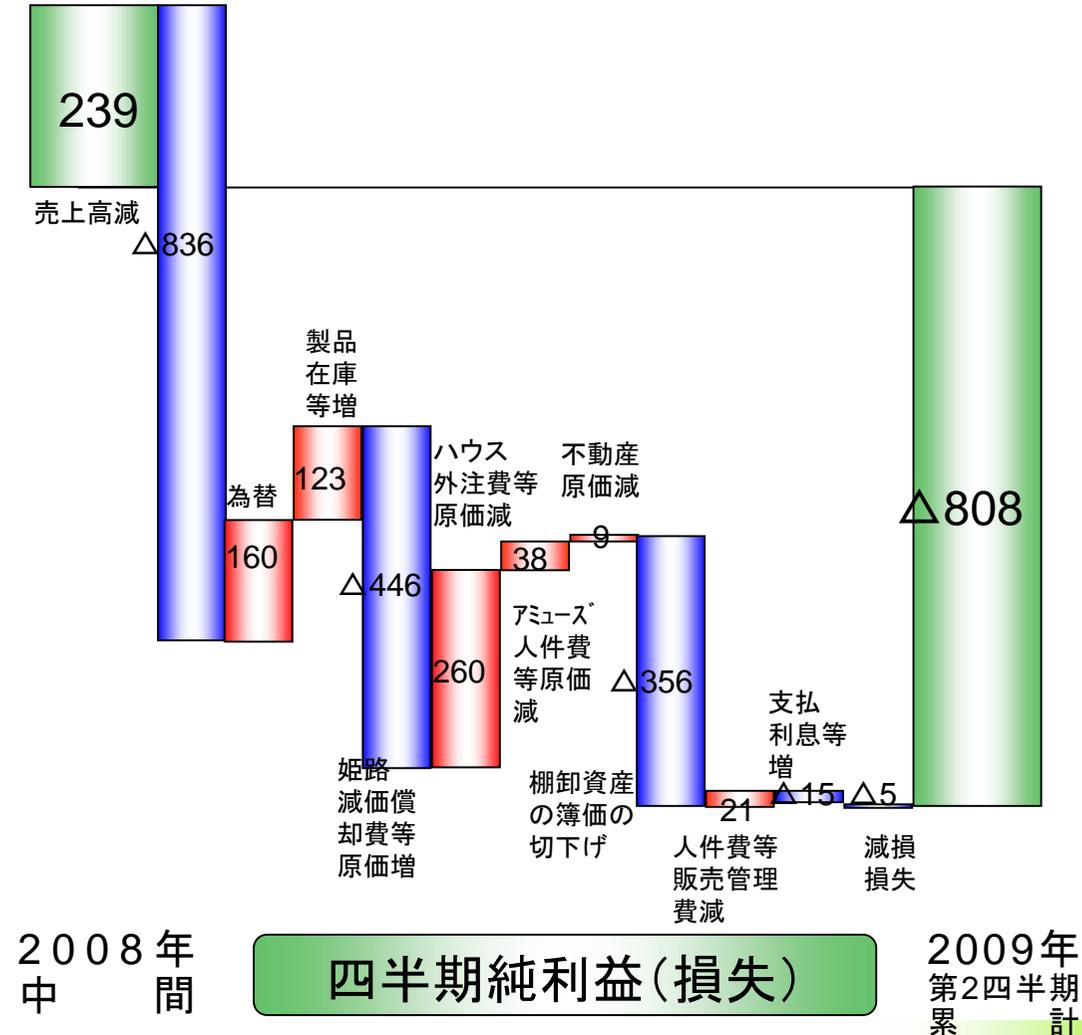
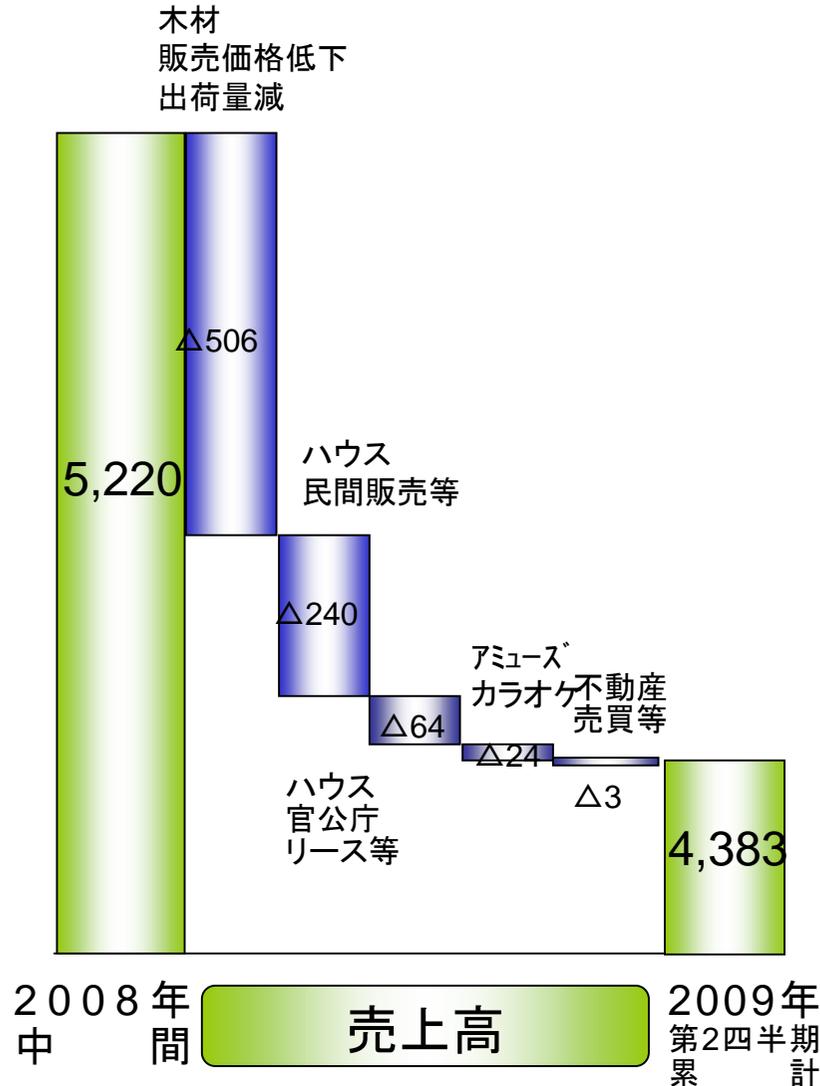
(単位:百万円)

	2008年 中間	百分比	2009年 第2四半期累計 業績予想	2009年 第2四半期 累計実績	百分比	前年 同期比	業績 予想比
売上高	5,220	100.0%	4,619	4,383	100.0%	84.0%	94.9%
売上総利益	1,078	20.7%	112	29	0.7%	2.7%	26.1%
販売費及び 一般管理費	627	12.1%	647	606	13.8%	96.6%	93.5%
営業利益又は 営業損失(△)	451	8.6%	△535	△576	—	—	—
経常利益又は 経常損失(△)	403	7.7%	△600	△639	—	—	—
中間純利益又は 四半期純損失(△)	239	4.6%	△764	△808	—	—	—
1株当たり中間純利益又は 1株当たり四半期純損失(△)	138.54円	—	△441.56円	△466.99円	—	—	—

- 景気の悪化により梱包市場も縮小。シェア拡大のため戦略的価格による積極営業を展開。姫路工場の減価償却費負担増、収益性の低下による棚卸資産の簿価の切下げ、繰延税金資産の全額取崩等により営業損失、経常損失、四半期純損失を計上。

## 2. 売上高・四半期純利益(損失)の増減要因

(単位:百万円)

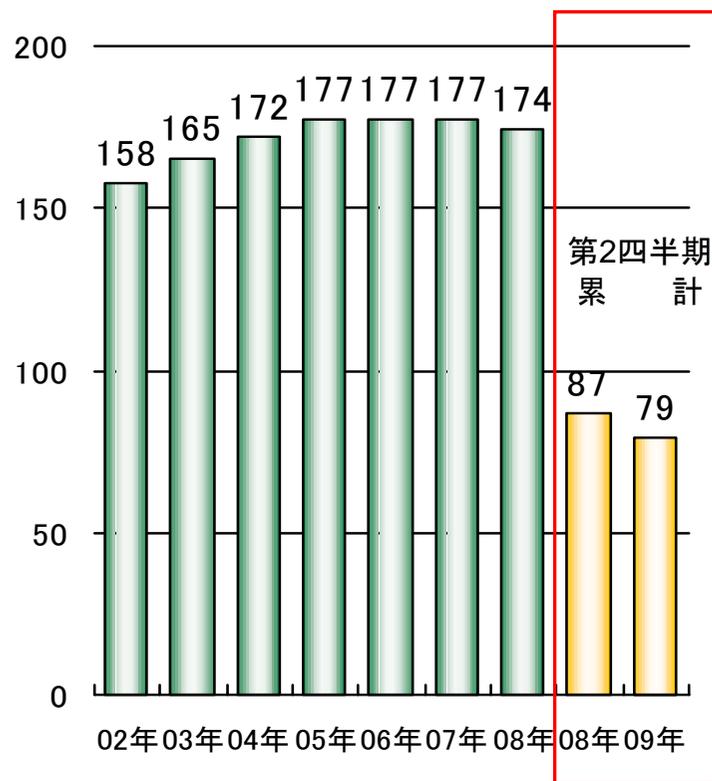


### 3. 事業の種類別セグメント業績 ● 木材事業

- 縮小した市場の中で受注を確保(前期比90%)、シェア拡大のため積極営業を展開。
- 為替レート前期比10円07銭 円高ドル安。● 姫路工場の減価償却費負担増加。

#### ■ 当社出荷量の推移

(単位:千m<sup>3</sup>)



#### ■ 木材事業の業績

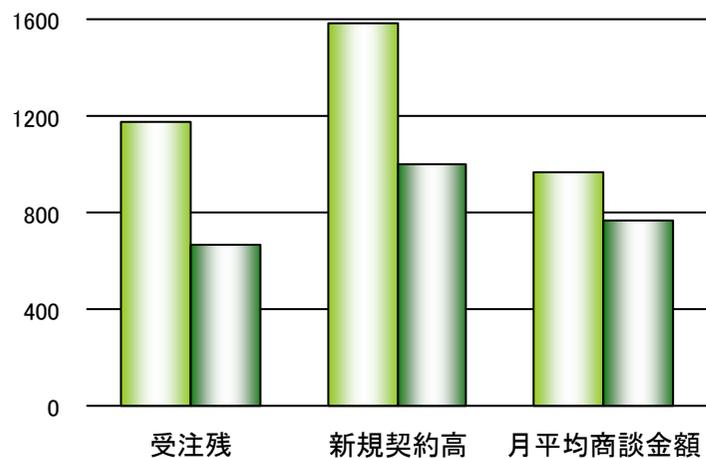
(単位:百万円)

	2008年 中間	百分比	2009年 第2四半期 累計実績	百分比	前年 同期比
売上高	3,038	100.0%	2,532	100.0%	83.4%
営業費用	2,574	84.7%	3,062	120.9%	119.0%
営業利益又は 営業損失(△)	463	15.3%	△530	—	—
平均為替 レート(円)	111.97	—	101.90	—	91.0%

## ● ハウス事業

- 民需による建設工事が大幅に減少し、売上高・営業利益共に減少。
- 中大型物件の減少、1件あたりの商談金額・契約金額の低下。

■ 受注残、新規契約高、月平均商談金額  
(百万円)



■ ハウス事業の業績

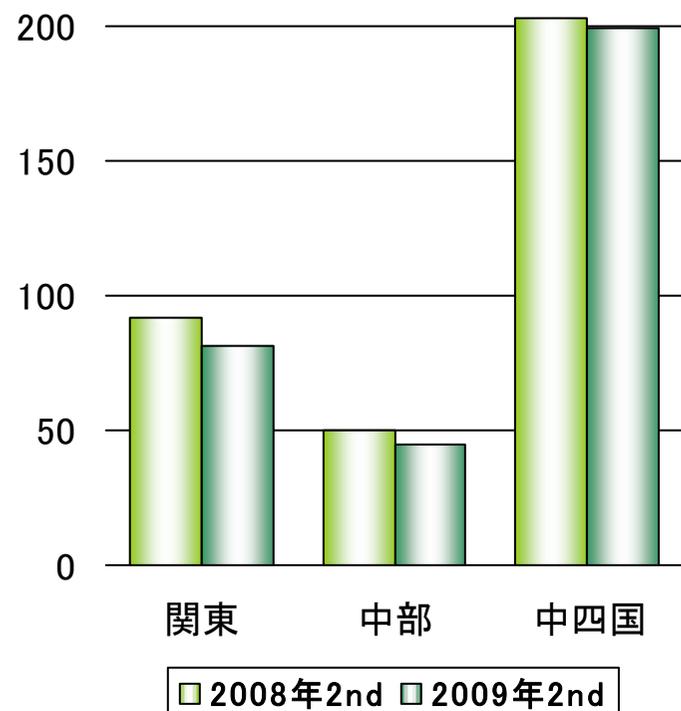
(単位:百万円)

	2008年 中間	百分比	2009年 第2四半期 累計実績	百分比	前年 同期比
売上高	1,618	100.0%	1,314	100.0%	81.2%
営業費用	1,541	95.2%	1,284	97.7%	83.3%
営業利益	77	4.8%	29	2.3%	38.3%

## ● アミューズメント事業

- 景気悪化の深刻化により消費意欲が減退し、売上高は減少。
- 飲食仕入や人件費等コストの見直しを行い、営業利益は増加。

■ カラオケ店舗地域別売上高の推移  
(百万円)



■ アミューズメント事業の業績

(単位:百万円)

	2008年 中間	百分比	2009年 第2四半期 累計実績	百分比	前年 同期比
売上高	508	100.0%	<b>484</b>	100.0%	95.4%
営業費用	488	96.1%	<b>448</b>	92.5%	91.8%
営業損益	20	3.9%	<b>36</b>	7.5%	181.6%

## ● 不動産事業

- 賃貸マンションは増収、売買物件の成約2件→1件により売上高が微減。
- 棚卸資産の簿価の切下げ21百万円の計上により、営業損失を計上。

### ■ 不動産事業の業績

(単位:百万円)

	2008年 中 間	百分比	2009年 第2四半期 累計実績	百分比	前 年 同期比
売上高	56	100.0%	53	100.0%	95.1%
営業費用	47	85.6%	59	111.0%	123.3%
営業利益又は 営業損失(△)	8	14.4%	△5	—	—

## 4. 四半期連結貸借対照表及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書

## ■ 要約四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

(百万円)	2008年 中 間	構成比	2009年 第2四半期末	構成比	増減	主な要因
流動資産	5,154	40.1%	5,686	43.3%	532	現金及び預金、棚卸資産の増加、売上債権等の減少
固定資産	7,687	59.9%	7,432	56.7%	△254	姫路工場の機械装置の償却等による減少
資産合計	12,841	100.0%	13,119	100.0%	278	
流動負債	3,775	29.4%	3,517	26.8%	△257	仕入債務、未払法人税等、その他の流動負債の減少、短期借入金の増加
固定負債	5,412	42.2%	6,860	52.3%	1,447	長期借入金の増加
負債合計	9,187	71.6%	10,378	79.1%	1,190	
純資産	3,653	28.4%	2,741	20.9%	△911	利益剰余金の減少
負債及び純資産合計	12,841	100.0%	13,119	100.0%	278	

## ■ 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)	2008年 中 間	2009年 第2四半期	主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	391	430	減価償却費の増加、売上債権及び仕入債務の減少
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,080	△429	有形固定資産の取得による支出の減少
財務活動によるキャッシュ・フロー	948	512	短期借入金の減少、長期借入による収入の減
現金及び現金同等物の中間期末残高又は四半期末残高	624	1,166	

自己資本比率

28.4% 20.9%

有利子負債比率

50.7% 63.3%

PART4

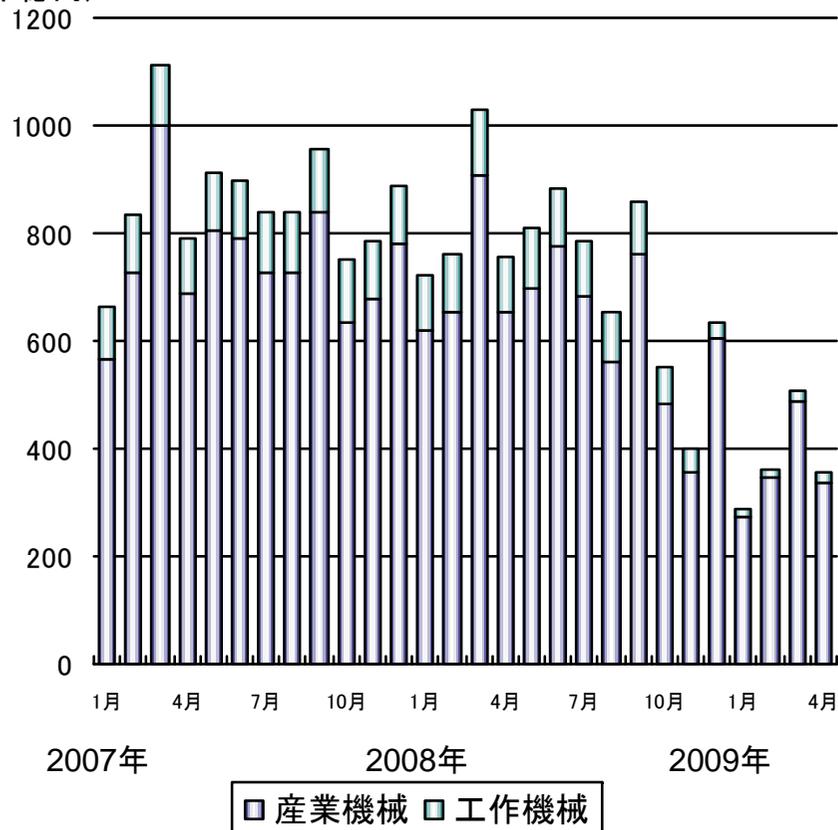
市場環境と取組みの進捗状況

● 木材事業の市場環境 ①～梱包用材のエンドユーザーの環境

■ 産業機械及び工作機械の受注状況

内閣府経済社会総合研究所 機械受注統計調査

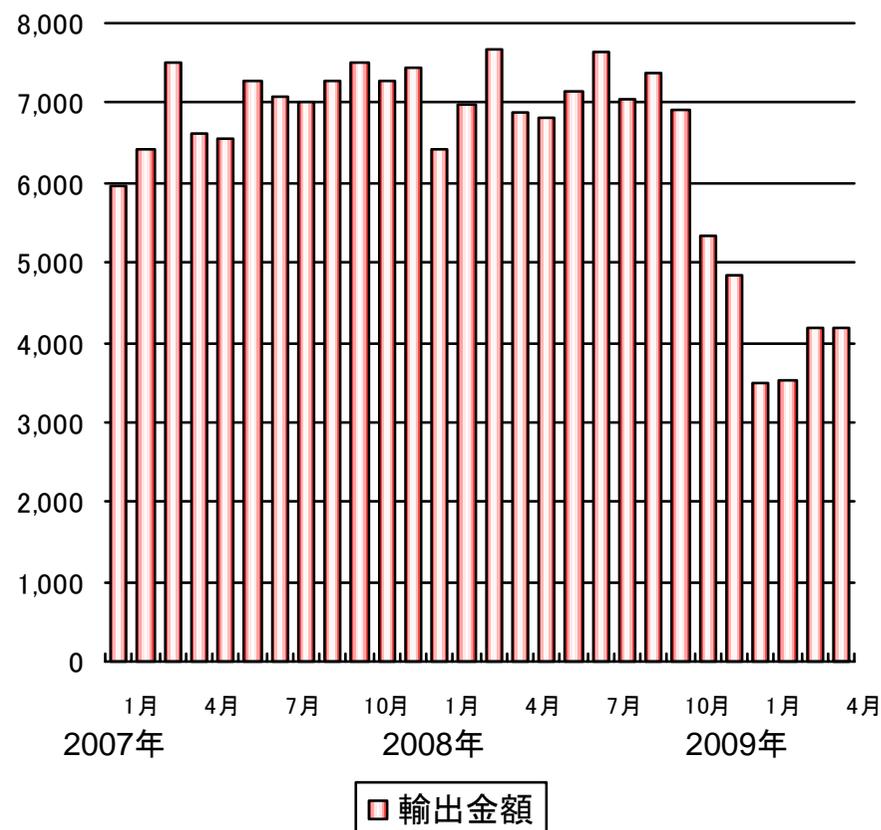
(十億円)



■ 輸出の状況

財務省 貿易統計

(十億円)



● 産業機械・工作機械等の受注は、下げ止まり。輸出は若干回復傾向。

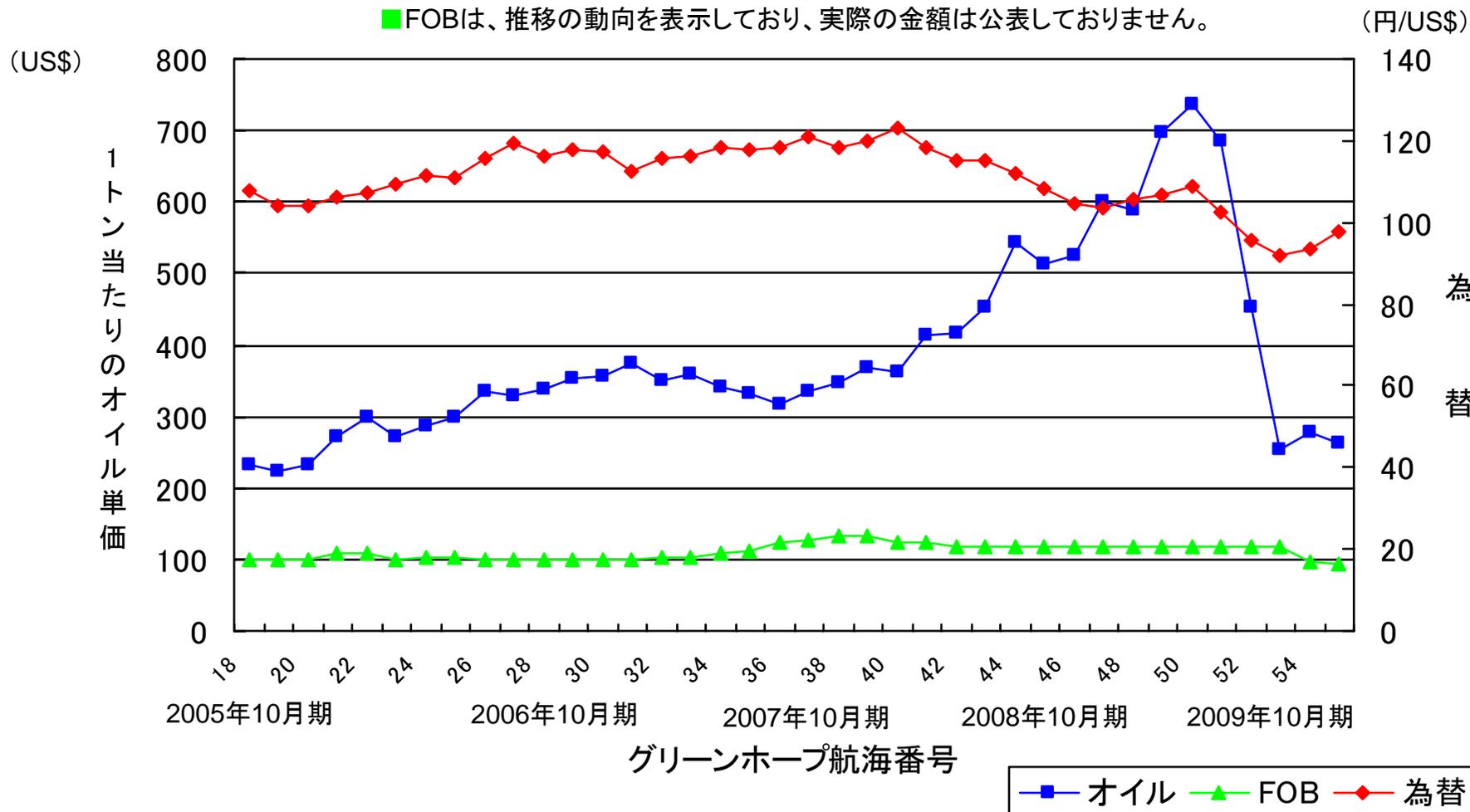
●木材事業の市場環境 ②～原材料仕入コストの環境

■ 為替・オイル・FOBの推移

■ オイルは自社船の各航海毎の1トン当たりの単価をUS\$で表示しております。(左軸)

■ 為替は、各航海の平均為替レートを表示しております。(右軸)

■ FOBは、推移の動向を表示しており、実際の金額は公表していません。



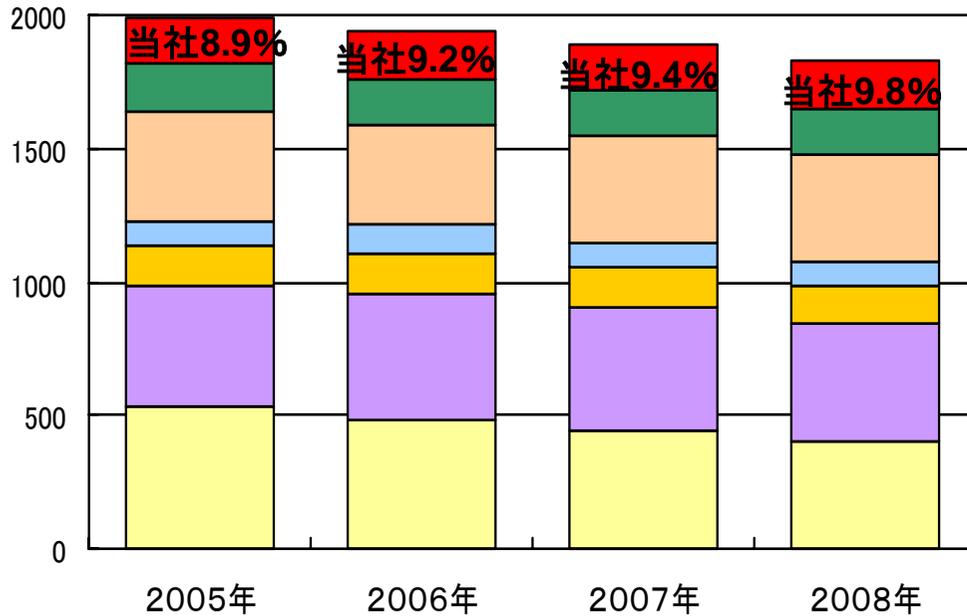
● オイルは急落の後、直近で上昇、為替は急激な円高の後、円安傾向。FOBは若干低下。

※FOBとは、原木を船に積み込んで引き渡すまでの価格のことをいいます。

●木材事業の市場環境 ③～市場シェアの動向

■ 木材梱包用材の全体の出荷量と当社の比率 単位：千㎡ ■ 2009年1～4月の想定シェア

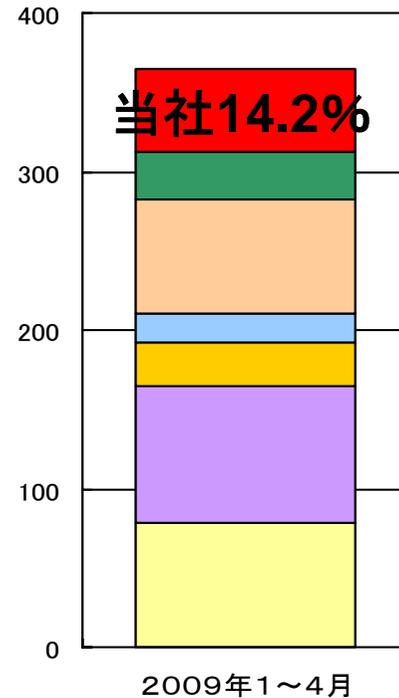
全体の出荷量 1,994 1,940 1,893 1,828



- その他の地域
- 高知県
- チリ輸入製材品
- 当社の
- 北海道
- 広島県
- ニュージーランド輸入製材品

※ニュージーランド輸入製材品、チリ輸入製材品は、財務省輸入統計の通関量を表示しております。  
 ※輸入製材品以外の出荷量は、農林水産省木材統計の用途別製材品出荷量の「木箱 仕組板・梱包用材」を表示しております

マーケットが60%に縮小していると仮定した場合の想定シェア



■ 販売先数の推移

2007年11月  
393社  
↓ 15%UP

2008年4月  
453社  
↓ 20%UP

2009年4月  
547社

※ニュージーランド輸入製材品、チリ輸入製材品は、財務省輸入統計の2009年1～4月の通関量を表示しております。  
 ※輸入製材品以外の当社の出荷量は、2009年の全体の出荷量を前年の60%と想定し、輸入製材品及び当社の1～4月の出荷量を控除した残りを、前年の比率で按分した数値を表示しております。

## ● 木材事業：取組みの進捗状況

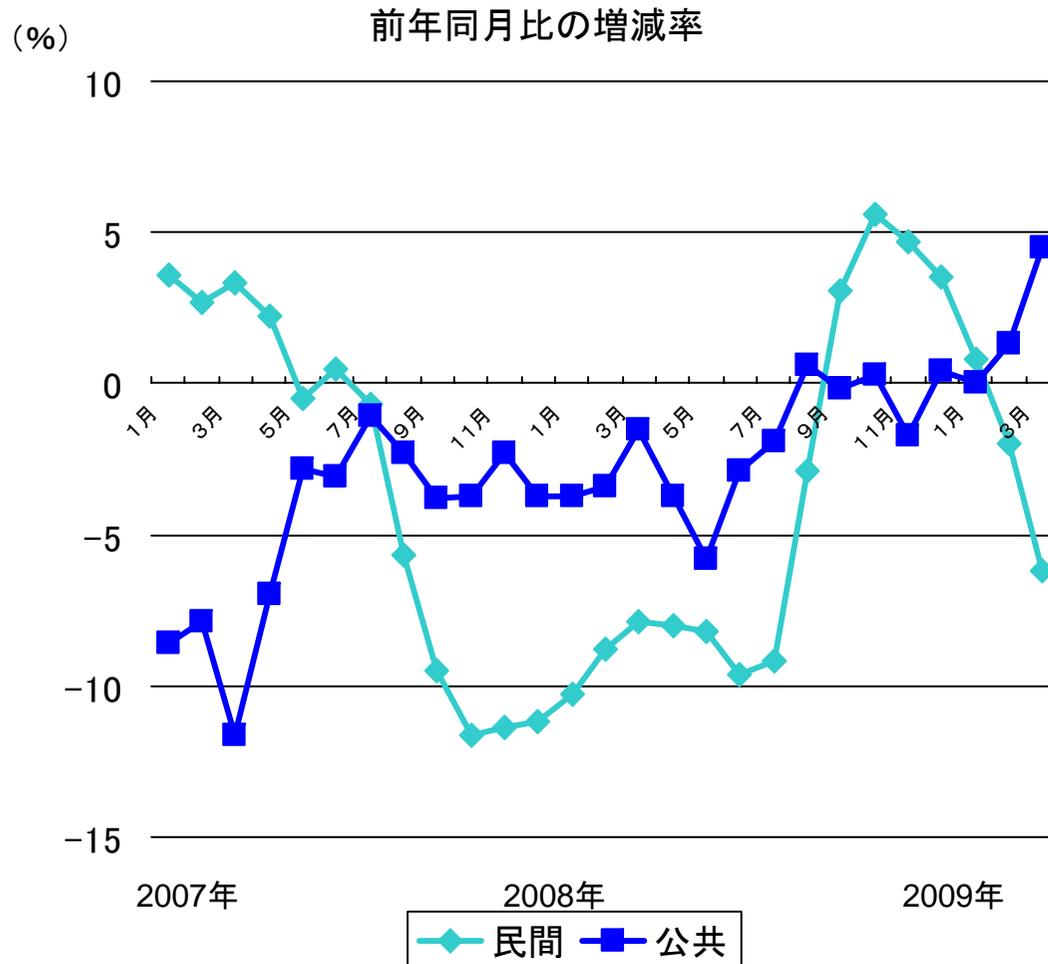


- 出荷量 7万9千 $m^3$  (前期比90.8%)
- 原木消化量4月 前年同月比111.0%
- シェア拡大のための積極営業  
販売先数 前年同月比 120.8%

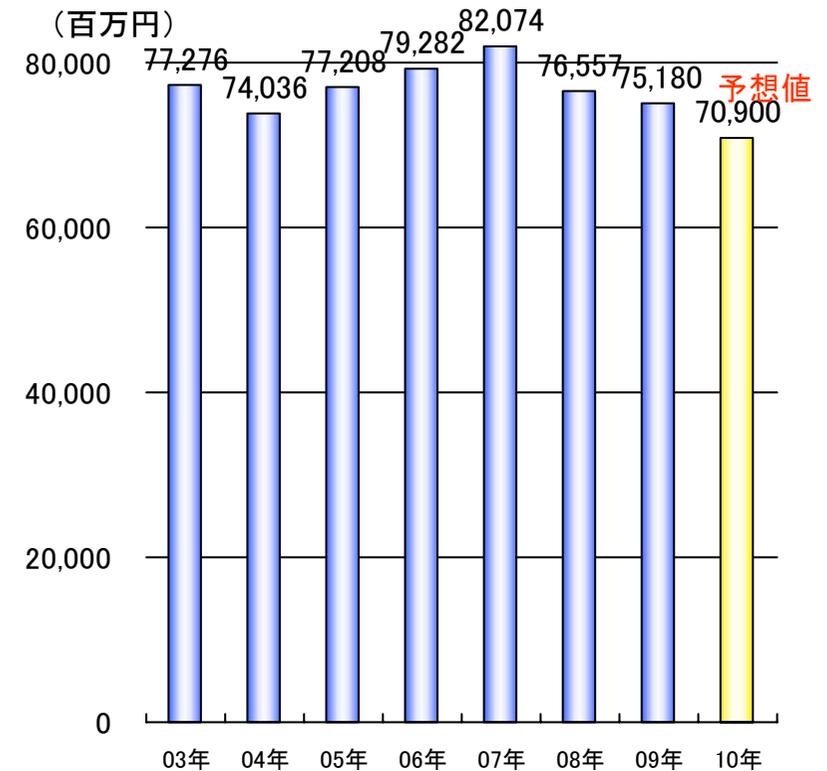
姫路工場

● ハウス事業の市場環境

■ 建設総合統計(出来高ベース) 国土交通省



■ プレハブ業界大手4社の売上高推移



(注) 上場しているプレハブ大手4社(日成ビルド工業、東海リース、三協フロンティア、ナガワ)の決算短信をもとに、売上高の合計を掲載しております。

● 公共工事共に多少回復が見られるものの民需による工事が大幅に減少。

## ●ハウス事業：取組みの進捗状況

### ■契約高及び利益率の確保

- 民間の販売物件を中心に、受注の選別を行い利益率を確保。

民需による建設工事が激減、与信リスクも増加 ➡ 公共工事へシフト

- 営業活動量の増加、新規商談獲得数の増加を徹底指導

前年同期比で商談件数△13%、商談金額△23%、1件当たり単価△11%



システム建築施工例

### ■組織の合理化

- 地区営業部制を廃止し、営業統括部直轄管理
- リースセンターの集約

関東リースセンターを閉鎖し、中部リースセンターへ集約  
前期末より人員を約10%削減

### ■営業力の強化、技術者の増強

- 全営業社員研修を開催
- 建築士・監理技術者の増員

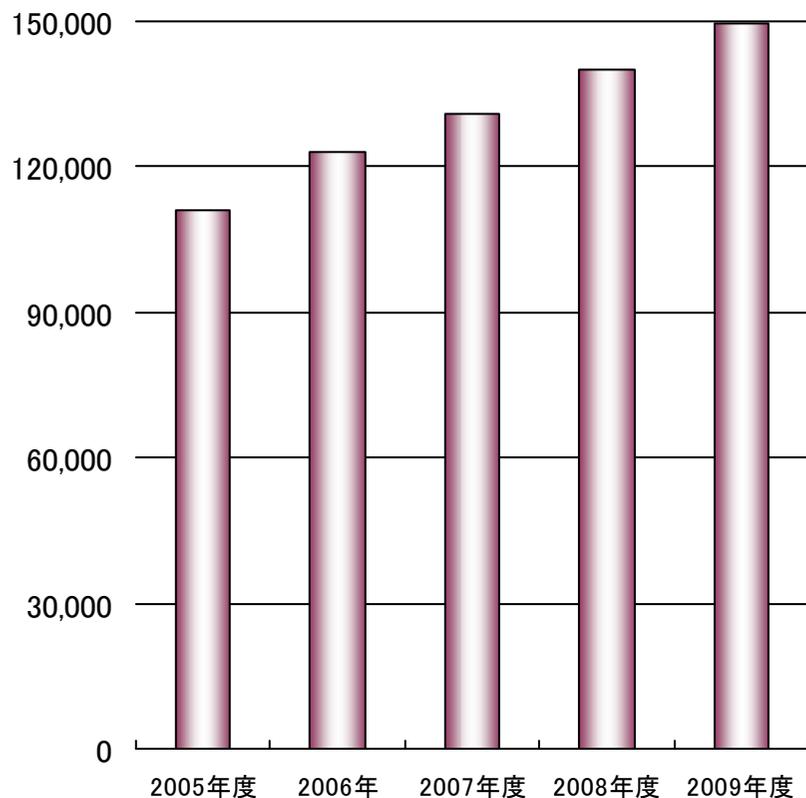
建築士1名、建築科新卒1名採用、女性営業1名の採用



ユニットハウス施工例

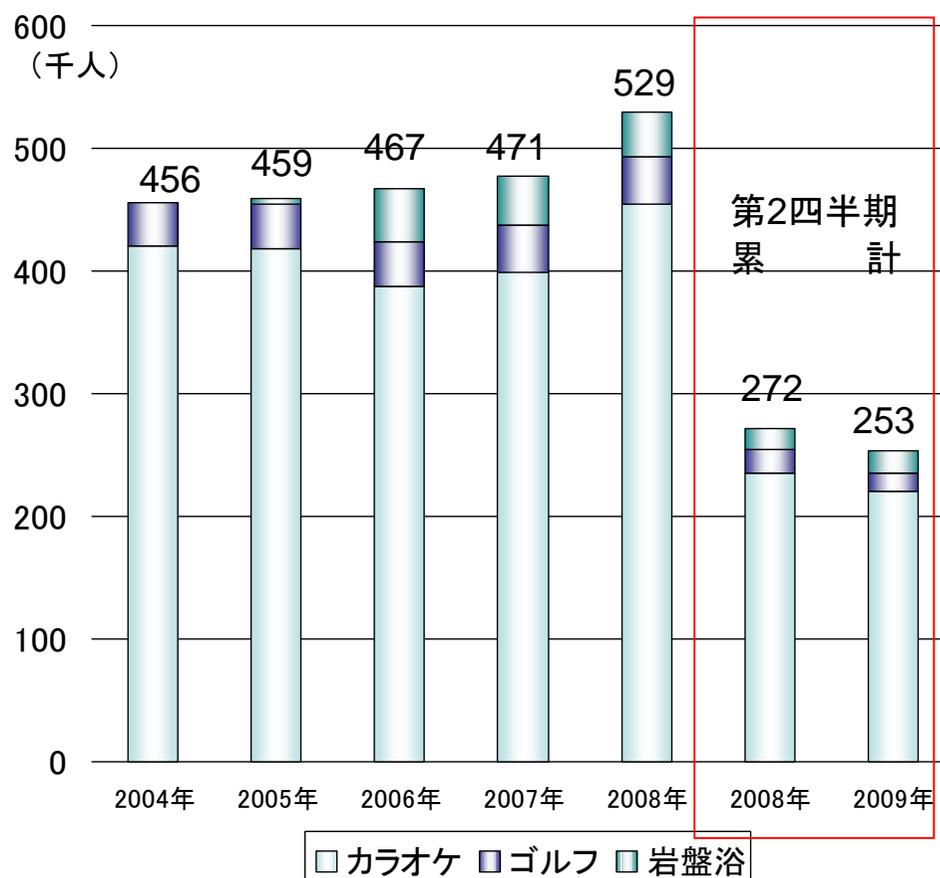
## ● アミューズメント事業の市場環境

### ■ カラオケ上場5社売上高推移 (百万円)



上場しているカラオケ5社(シダックス、第一興商、AOKIホールディングス、鉄人化計画、コシダカ)の決算短信をもとに、カラオケ事業の売上高の合計を掲載しております。なお、決算期が3月ではない2社につきましては、直近の四半期決算短信の通期予想を基に数値を作成しております。

### ■ 当社のアミューズメント事業の利用者数



- カラオケ大手チェーン店は順調に売上高を伸ばすが、営業利益では減益となった会社もあり。
- 当社は、景気悪化の深刻化で利用者数が減少。

● アミューズメント事業：取組みの進捗状況

■ 店長を中心に、社員教育を強化

- 店舗の柱となる店長の教育を強化。

毎月の店長会議において、コスト意識、営業能力、集客力向上等の研修を実施

■ 既存店舗の収益力の向上

- イベント企画、サービス情報等をメール配信し会員への情報提供を行う。
- 女性専用岩盤浴、リンパマッサージやエステ等の複合サービスの提供を行う。

メール会員に対する情報発信、地元FMとのタイアップ企画、ホットヨガ等女性向けの複合サービスの実施。



PART5

# 2009年10月期の業績予想

# 1. 連結業績予想(通期)

(単位:百万円)

	2008年	百分比	2009年	百分比	前期比
売上高	10,195	100.0%	8,769	100.0%	86.0%
売上総利益	1,998	19.6%	649	7.4%	32.5%
販売費及び一般管理費	1,393	13.7%	1,326	15.1%	95.2%
営業利益又は営業損失(△)	604	5.9%	△677	—	—
経常利益又は経常損失(△)	520	5.1%	△815	—	—
当期純利益又は当期純損失(△)	202	2.0%	△996	—	—
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)	117.00円	—	△575.33円	—	—

●景気の悪化による梱包市場も縮小、競争激化による販売価格の低下等により減収。姫路工場の減価償却費負担増、収益性の低下による棚卸資産の簿価の切下げ、業績悪化による繰延税金資産の全額取崩し等により、営業損失・経常損失・当期純損失を計上する見込み。なお、マーケットの回復と姫路工場の稼働率の向上により10月から木材事業で単月黒字化を見込む。

## 2. 予想配当

期末配当		配当性向
2008年 10月期	普通配当 30円	25.6%
2009年 10月期	普通配当 30円	—

普通配当30円を継続

## ●本資料お取扱上のご注意

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想並びに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。

●IR担当窓口



ORVIS

株式会社 オービス

企画室 梅田 孝史

Tel. 084-934-2621 (代)

Fax. 084-934-2624

E-mail: [ir@orvis.co.jp](mailto:ir@orvis.co.jp)

URL: <http://www.orvis.co.jp>